

### 資料5-2 鉄道・航空機事故調査委員会資料まとめ (滑空機事故発生年別事故件数)

「鉄道・航空機事故調査委員会」WEBページ(<http://araic.assistmicro.co.jp/araic/aircraft/index.html>)を調査した。

#### 【調査結果】

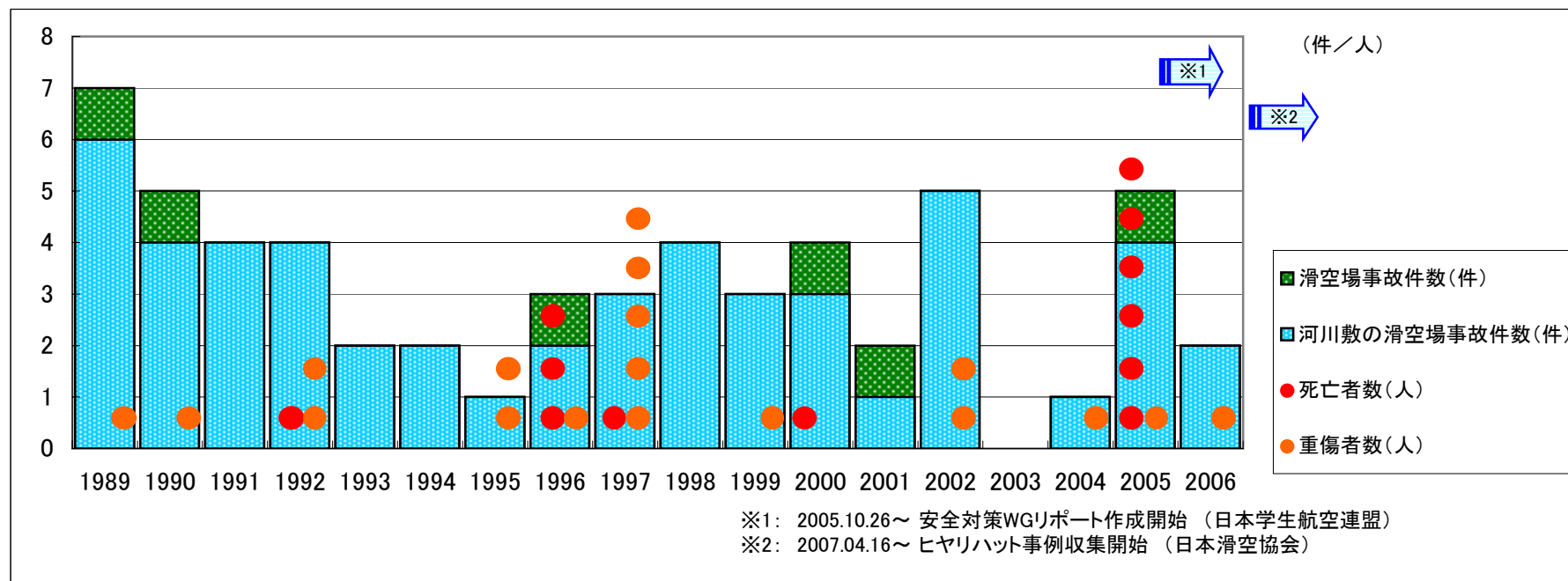
1989～2006(18年間)で、滑空機(モーターグライダー除く)事故発生件数は57件。

うち、6件は河川敷ではない滑空場。

滑空機(モーターグライダー除く)事故での死傷者数30名(死亡12名 重傷18名)。

死傷者はいずれも、滑空機搭乗者および地上待機中の関係者。

なお、年度別傾向は下グラフの通り。



#### 【添付資料】

① 「滑空機事故一覧(2000～2006)」: 上記WEBページの情報を編纂したもの

※「航空事故調査報告書」は、<http://araic.assistmicro.co.jp/araic/aircraft/kensaku/index.html>より閲覧が可能です。

資料5-2付 滑空機事故一覧(2000~2006)  
 ~ 航空・鉄道事故調査委員会WEBページより

整理番号	発生日月	発生場所	登録記号	型式	運航者	主因	報告書	事故概要	事故原因	飛行手段	搭乗者の負傷	航空機の損壊	墜落場所
2006-1	2006/6/24	長野県長野市(千曲川右岸敷)	JA2475	PZL-ビエルスコ式S2D-51-ジュニア型	長野市グライダー協会	操縦者	公表	長野市グライダー協会所属PZL-ビエルスコ式S2D-51-ジュニア型JA2475は、平成18年6月24日(土)、レジャーのため、長野県長野市にある長野市滑空場からウインチ曳航により発航し、飯縄山方面に向かって飛行中、12時55分ごろ飯縄高原スキー場第3駐車場に不時着した。搭乗者の負傷 機長 重傷 航空機の損壊 機体 中破	本事故は、同機が同市街地中心より北西約3kmの地点で高度約1,400mまで上昇し、飯縄山に向かっての滑空空中に、地形が登り勾配であったので、対地高度を著しく失ったこと及び機長が見かけの降下角が大きくなる錯覚に陥ったことから、同滑空場に引き返す時機を逸し、スキー場の駐車場に不時着する際に激しく接地したため、機体が大破するとともに、機長が負傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	機長 重傷	中破	駐車場に不時着
2006-2	2006/5/3	群馬県邑楽郡板倉町板倉滑空場(渡良瀬川右岸敷)	JA2291	ロラデン・シュナイダー式LS3-a型	個人	操縦者	公表	個人所属ロラデンシュナイダー式LS3-a型JA2291は、平成18年5月3日(水:祝日)、慣熟飛行のため、板倉滑空場を14時20分に飛行機曳航により発航し、同24分離脱した。約2時間半飛行後、板倉滑空場に着陸進入時に高度が低くなり、滑走路に斜めに進入した際、接地直前に左翼端を灌木に接触させ、水平方向に機首を反転させ、機体を損傷した。事故発生時刻は17時05分ごろであった。搭乗者の負傷 なし 航空機の損壊 機体中破	本事故は、機長が、同機を滑空場に着陸させようとした際、高度が低くなり、滑走路に斜めに進入したが滑走路に到達できず、隣接する草地に接地する直前に左翼端を灌木に接触させたため、機首が反転して落下し、同機を中させたことによるものと推定される。	飛行機曳航	死傷者なし	中破	接地直前に左翼端を灌木に接触させ、機体損傷
2005-1	2005/8/31	埼玉県大里郡妻沼町(平成17年10月1日より熊谷市)(利根川右岸敷)	JA60CT	アレキサンダー・シュライハー式ASK21型	千葉工業大学	操縦者	公表	千葉工業大学所属アレキサンダー・シュライハー式ASK21型(滑空機、複座)JA60CTは、平成17年8月31日(水)、体験飛行のため、埼玉県大里郡妻沼町の妻沼滑空場からウインチ曳航により発航し、着陸のため進入中の12時25分ごろ、第2滑空場脇の利根川に墜落した。同機には、機長ほか同乗者1名計2名が搭乗していたが、機長が重傷を負い、同乗者は死亡した。同機は大破した。	本事故は、機長が第3旋回を実施した後、機首を滑走路方向に向け急降下させ、その降下から回復する機首上げ操作のタイミングが遅れたため、滑走路手前の利根川に墜落し、機体が大破するとともに、機長が重傷を負い同乗者が死亡したことによるものと推定される。なお、機首上げ操作のタイミングが遅れたことについては、風が静穏で水面が鏡面状態になっており、高度を判断するための比較対象物がなく、更に急降下したことにより速度が増加し、その結果必要とする操舵力が増大したこと、及び機長が同乗者に過大な加速度を加えることを懸念したことが	ウインチ曳航	機長 重傷 同乗者 死亡	大破	滑空場脇の利根川に墜落
2005-2	2005/8/20	千葉県野田市(江戸川左岸敷)	JA00HY	アレキサンダー・シュライハー式ASW24トッパ型	個人	操縦者	公表	個人所属アレキサンダー・シュライハー式ASW24トッパ型JA00HYは、平成17年8月20日(土)、レジャーのため、機長のみが搭乗して千葉県野田市にある関宿滑空場から飛行機曳航により10時24分に発航して飛行中、11時58分ごろ、関宿滑空場の東約600mにある駐車場に墜落した。同機は大破し、機長が死亡した。	本事故は、機長が、関宿滑空場に隣接した東側で上昇気流をとらえようと低速で急旋回したため、誤ってスピンに陥り、低高度であったことからスピンから回復できず地面に衝突し、機体が大破するとともに、機長が死亡したことによるものと推定される。	飛行機曳航	機長 死亡	大破	滑空場の東約600mにある駐車場に墜落
2005-3	2005/7/24	浜北滑空場(天竜川河川敷)	JA2201	グラスフリューゲル式クラブレ205型	個人	操縦者	公表	個人所属グラスフリューゲル式クラブレ205型JA2201は、平成17年7月24日(日)、慣熟飛行のため、静岡県浜松市の浜北滑空場を16時30分ごろウインチ曳航により発航中、同滑空場に墜落した。同機には、機長のみが搭乗していたが、死亡した。同機は大破した。	本事故は、同機がウインチ曳航により発航中に適切な速度を獲得しないうち上昇姿勢を取ったことにより同機の姿勢が不安定となり、その後の修正操作が機首を下げることなくエルロンだけで行われたため、何度か修正しているうちに右翼が失速状態になり、裏返しとなって地面に衝突し、機体が大破するとともに、機長が死亡したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	機長 死亡	大破	滑空場に墜落
2005-4	2005/5/17	大分県竹田市久住滑空場	JA21KK	PZL-ビエルスコ式S2D-50-3"プハッチ"型	九州工業大学	気象	公表	九州工業大学所属、財団法人日本学生航空連盟運航のPZL-ビエルスコ式S2D-50-3"プハッチ"型JA21KK(滑空機、複座)は、平成17年5月17日(火)、操縦練習のため、大分県竹田市の久住滑空場において、ウインチ曳航による発航中、08時54分ごろ発航地点から約700mの地点に墜落した。同機には、操縦教員及び操縦練習生1名計2名が搭乗していたが、2名とも死亡した。同機は大破した。	本事故は、同機がウインチ曳航による発航中、強い追い風のもとにおける離陸上昇であったことから対気速度が十分に得られず、失速してきりもみに陥り低高度であったため回復できず、地面に衝突し、機体が大破するとともに、操縦教員及び操縦練習生が死亡したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	操縦教員、操縦練習生とも死亡	大破	発航地点から約700mの地点に墜落
2005-5	2005/1/8	群馬県邑楽郡板倉町(渡良瀬川右岸敷)	JA2566	シェンブ・ヒルト式ベントウス2a型(滑空機、単座)	個人	操縦者	公表	個人所属シェンブ・ヒルト式ベントウス2a型(滑空機)JA2566は、平成17年1月8日(土)、レジャーのため、機長が搭乗して、群馬県邑楽郡板倉町にある板倉滑空場から飛行機曳航により10時58分に発航した。11時02分に曳航機から離脱し、飛行した後、12時04分、同滑空場に着陸しようとして墜落した。同機は大破し、機長が死亡した。	本事故は、機長が、追い風の滑走路上を低高度で通過後、風にはほぼ正対する滑走路に着陸しようとして、同機が左上昇旋回中、外滑り状態で、バンク角が深く、低高度で失速状態に陥ったため、地面に衝突し、機体が大破するとともに、機長が死亡したことによるものと推定される。	飛行機曳航	機長 死亡	大破	滑空場に墜落
2004-1	2004/2/1	埼玉県北埼玉郡大利根町(利根川右岸敷)	JA21TT	PZL-シフドニク式PW-5"スムイク"型	個人(学生航空連盟所属)	操縦者	公表	個人所属PZL-シフドニク式PW-5"スムイク"型JA21TTは、平成16年2月1日(日)、操縦練習のため、教官の監督の下、操縦者のみが搭乗して、13時48分ごろ、埼玉県北埼玉郡大利根町の読売大利根滑空場をウインチ曳航により発航中、同滑空場東側の利根川の水面に墜落した。搭乗者の死傷 操縦者 重傷 航空機の損壊 機体 大破	本事故は、同機が、ウインチ曳航により発航中、右にわずかに傾いたが操縦者が回復操作を行わなかったため、傾きが大きくなり横転しながら川に墜落し、機体を損傷して操縦者が負傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	操縦者 重傷	大破	滑空場東側の利根川の水面に墜落
2002-1	2002/7/28	千葉県東葛飾郡関宿町(江戸川左岸敷)	JA2501	PZL-ビエルスコ式S2D-50-3"プハッチ"型(滑空機、複座)	個人	操縦者	公表	JA2501は、平成14年7月28日(日)、操縦練習飛行のため、操縦教員及び操縦練習生の2名が搭乗して、千葉県東葛飾郡関宿町の河川敷にある関宿滑空場を12時32分ごろ、曳航により南に向かって発航した。発航後、操縦教員は、上昇率が通常よりも悪いと感じ、曳航機に不具合があると判断し、曳航索を切り離れた。その後、機首を下げ左旋回したところ、バンク角が大きくなって失速し墜落した。搭乗者の死傷 操縦教員 軽傷 操縦練習生 重傷 航空機の損壊 機体 大破	本事故は、操縦練習生が同機のエアブレーキを確実にロックせず、操縦教員も当該ロックを十分に確認しなかったことにより、曳航による上昇中に当該エアブレーキを展開し、通常よりも上昇率が小さかったことから、操縦教員が曳航索を切り離れた後、速度が十分ではなく、かつ、当該エアブレーキの影響で失速速度が大きい状態に旋回したため、失速状態となり、低高度であったことから回復できず、墜落して機体を損傷したことによるものと推定される。	飛行機曳航	操縦教員 軽傷 練習生 重傷	大破	失速し墜落
2002-2	2002/6/2	栃木県宇都宮市柳田町(鬼怒川右岸敷)	JA2565	アレキサンダー・シュライハー式ASW24型(滑空機、単座)	個人	操縦者	公表	JA2565は、平成14年6月2日(日)、慣熟飛行のため、機長が搭乗して小山絹滑空場から飛行機曳航により発航し、同滑空場の北約50kmに位置する矢板インターチェンジ付近まで飛行した。その後、同滑空場に戻る途中に高度を失ったため、14時12分ごろ、宇都宮場外離着陸場に着陸しようとした際、同場外離着陸場の南約250mの雑木林に墜落した。搭乗者の死傷 機長 重傷 航空機の損壊 機体 中破	本事故は、同機が宇都宮場外に低高度で着陸進入しようとした際、大きなバンク角を取ったこと、及び樹木を避けようとして操縦桿を引いたことにより失速したため、墜落し、機体を損傷して機長が負傷したことによるものと推定される。 なお、着陸進入時に低高度となったのは、機長が高度計を0ftに正規した小山絹滑空場と宇都宮場外付近との標高差により高度計の指示値が実際の対地高度よりも高く表示されることを失念していたこと、及び宇都宮場外に着陸した経験がなかったため目測による対地高度の判定を誤ったことによるものと推定される。	飛行機曳航	機長 重傷	中破	離着陸場の南約250mの雑木林に墜落
2002-3	2002/5/19	埼玉県北葛飾郡庄和町宝珠花滑空場(江戸川右岸敷)	JA2300	コピノアレキサンダー・シュライハー式ASK13型(滑空機、複座)	明治大学	操縦者	公表	JA2300は、平成14年5月19日(日)、慣熟飛行のため、機長及び同乗者1名計2名が搭乗し、埼玉県北葛飾郡庄和町にある宝珠花滑空場をウインチ曳航で、発航中、ウインチが緊急停止したため、飛行を中止して着陸する際、09時44分ごろ、ハードランディングして機体を損傷した。搭乗者の死傷 負傷なし 航空機の損壊 中破	本事故は、機長が、初期上昇段階で、通常より上昇角が大きめであったため、ウインチの緊急停止に伴い失速寸前となった際、機速の回復を図ろうと大きな機首下げを行ったものの、十分な揚力が得られず、接地時にハードランディングして機体を損傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	負傷なし	中破	滑空場にハードランディング

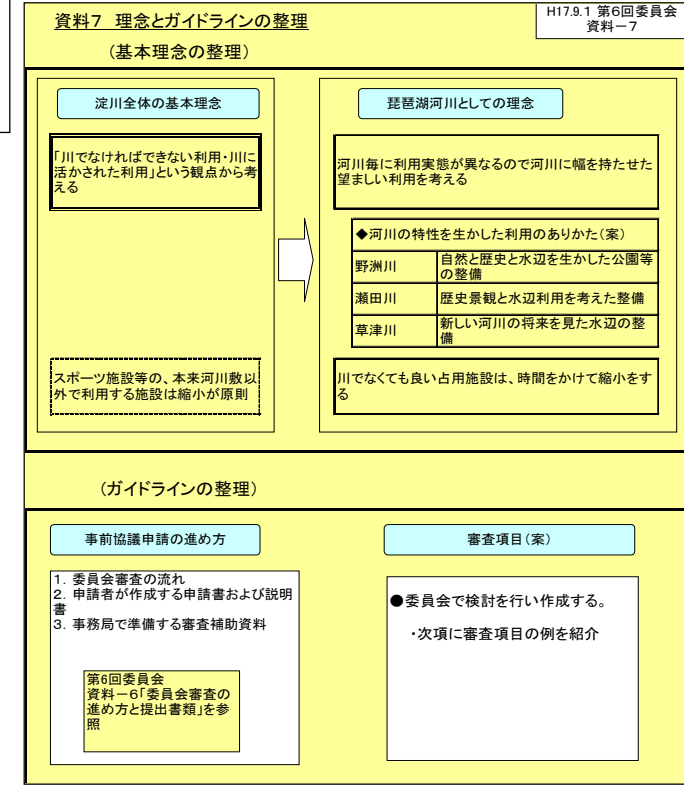
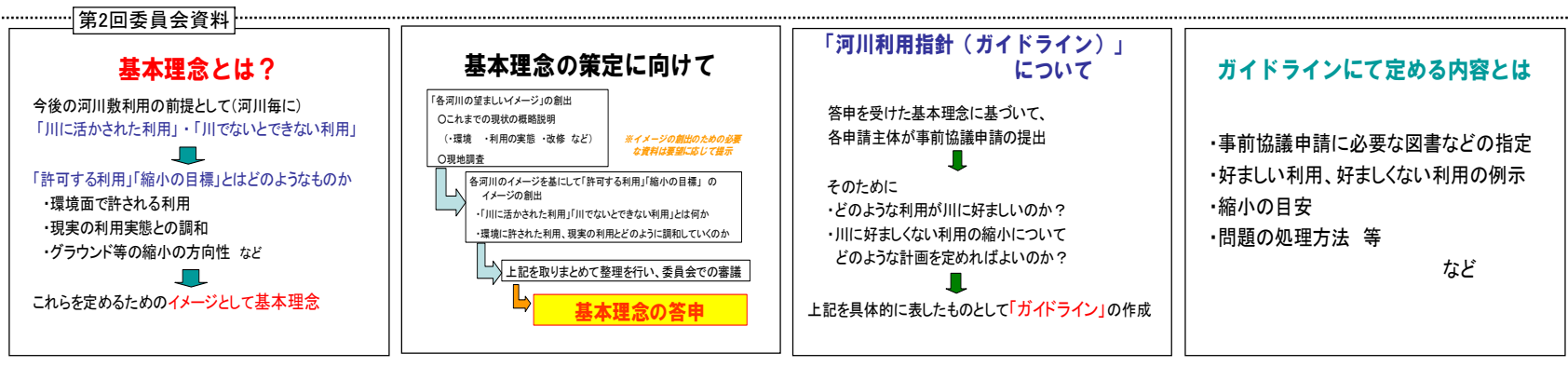
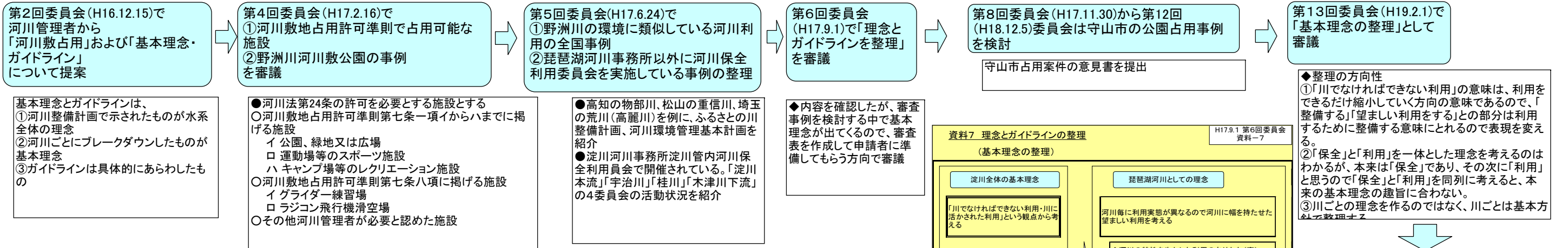
※「発生場所」:青字は河川敷滑空場  
 ※「搭乗者の負傷」:赤字は死亡。橙は重傷。

資料5-2付 滑空機事故一覧(2000~2006)  
 ~ 航空・鉄道事故調査委員会WEBページより

整理番号	発生日月	発生場所	登録記号	型式	運航者	主因	報告書	事故概要	事故原因	飛行手段	搭乗者の負傷	航空機の損壊	墜落場所
2002-4	2002/5/3	静岡県庵原郡蒲原町富士川滑空場付近海上上空(富士川右岸敷)	JA2480	レッド・ドット・カクハート式L-23スーパーグラニク型(滑空機、複座)	(社)静岡県航空協会	操縦者	公表	JA2480は、平成14年5月3日(金)、訓練のため、操縦教員及び操縦練習生の計2名が搭乗し、飛行機曳航により富士川滑空場を離陸した。富士川滑空場上空約800mで離脱し、完全失速からの回復訓練中において、12時15分ごろ両主翼を損傷した。 搭乗者の死傷 死傷者なし 航空機の損壊 機体 中破 火災発生なし	本事故は、同機による失速訓練の回復操作において、操縦教員が同機の設計運動速度以上の速度で引き起こし操作を行ったため、制限荷重を超える上向きの荷重が同機に加わり、主翼を損傷させたことによるものと推定される。 操縦教員が設計運動速度以上の速度で引き起こし操作を行ったのは、操縦練習生による失速からの回復操作が不適切であり、同機が失速から回復することなく落下し、その後、操縦教員が失速回復操作の一環で機首下げの操作を行った過程で、速度が増加したことによると考えられる。 なお、同機が失速から回復することなく	飛行機曳航	死傷者なし	中破 火災発生なし	—
2002-5	2002/3/13	埼玉県大里郡妻沼町の妻沼滑空場(利根川右岸敷)	JA38HM	PZL-ビエルクス式SZD-50-3バッチ型	個人	その他	公表	JA38HMは、平成14年3月13日(水)、操縦練習飛行のため、操縦教員及び操縦練習生が搭乗して妻沼滑空場の第2滑走路からウインチ曳航により10時53分ごろ、発航した。上空での操縦練習を終え、同滑走路32へ着陸進入中、高度を失い、11時54分ごろ、滑空場手前の空き地に接地後、滑空場境界のパイプ・バリケードに衝突し、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 死傷者なし 航空機の損壊 中破	本事故は、同機が着陸進入中、急激な気流の沈下帯に遭遇したため、高度を失い、滑空場手前の空き地に接地後、滑空場境界のパイプ・バリケードに衝突し、機体を損傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	死傷者なし	中破	滑空場手前の空き地に接地後、滑空場境界のパイプ・バリケードに衝突
2001-1	2001/9/12	長野県諏訪市内車山山頂付近	JA2163	グラスリュウゲル式スタンダードトリペル201B型	個人	操縦者	公表	JA2163は、平成13年9月12日(水)、レジャーのため、機長が搭乗して、霧ヶ峰滑空場からウインチ曳航により14時46分発航したが、車山付近において旋回中、急激に高度が下がり、14時55分ごろ車山の山頂付近に不時着した際、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 軽傷 航空機の損壊 中破	本事故は、機長が、車山方向に向かって飛行中、上昇風を感じて左旋回した直後、下降風帯に突入したことにより急激に高度が低下したため、車山頂上付近の斜面に不時着しようとして強く接地し、機体を損傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	軽傷	中破	車山の山頂付近に不時着
2001-2	2001/5/4	栃木県佐野市富士町(渡良瀬川右岸敷)	JA2477	PZL-ビエルクス式SZD-51-1"ジュニア"型	個人	その他	公表	JA2477は、平成13年5月4日(金)、グライダー競技のため、機長だけが搭乗し、群馬県邑楽郡板倉滑空場から飛行機曳航で発航し、事故現場付近で飛行していたが、高度が低下して上昇できないまま、付近のゴルフ場に不時着した際、14時00分ごろ樹木等に接触し、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 無し 航空機の損壊 中破 火災発生無し	本事故は、同機が、飛行中に予期しない気流の沈下帯に遭遇して高度が低下し、付近のゴルフ場に不時着した際、樹木等に接触したため、左主翼を損傷したことによるものと推定される。	飛行機曳航	負傷者なし	中破 火災発生なし	付近ゴルフ場に不時着時、樹木等に接触
2000-1	2000/5/24	埼玉県妻沼滑空場(利根川右岸敷)	JA2432	アレキサンダー・シュライハー式ASK23B型	個人	操縦者	公表	JA2432は、平成12年5月24日(水)、慣熟飛行のため、機長1名が搭乗し、妻沼滑空場の滑走路14からウインチ曳航により発航し、15時04分ごろ同滑走路に着陸の際、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 死傷無し 航空機の損壊 中破	本事故は、同機が、着陸の際、機長のファイナルアプローチにおける降下角のコントロールが適切でなかったため、滑走路手前の草地に接地後、刈り草の塊に衝突した際、左主翼を損傷し、さらにグランドループを発生して胴体を損傷したことによるものと推定される。	ウインチ曳航	死傷者なし	中破	滑走路に着陸
2000-2	2000/5/4	岐阜県大野郡丹生川村飛驒エアーパーク場外離着陸場	JA2438	グザン・ディルクス式DG-600型	個人	操縦者	公表	JA2438は、平成12年5月4日(木)、慣熟飛行のため、機長1名が搭乗し、岐阜県飛驒エアーパーク場外離着陸場(以下「場外離着陸場」という。)から飛行機曳航により13時38分ごろ発航し、15時50分ごろ場外離着陸場に着陸の際、離着陸地帯手前の法面に衝突し、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 死傷無し 航空機の損壊 中破	本事故は、同機が着陸の際、進入高度が低下した際の機長の適確な対応操作が遅れたため、過走帯末端の手前の法面上部に衝突し、機体を損傷したものと推定される。 なお、機長の適確な対応操作が遅れたことについては、機長が同型式機の操縦経験が浅く、同機の飛行性能に習熟していなかったことが関係したものと考えられる。	飛行機曳航	死傷者なし	中破	離着陸地帯手前の法面に衝突
2000-3	2000/3/18	栃木県河内郡上河内町大字上小倉1247(鬼怒川右岸敷)	JA97KD	シェンブ・ヒルト式ディスクAsb型	個人	操縦者	公表	JA97KDは、平成12年3月18日(土)、レジャーのため、機長だけが搭乗し、栃木県小山絹滑空場を飛行機曳航で発航し、同県河内郡上河内町付近上空を飛行中、14時10分ごろ、水田に不時着した際、機体を損傷した。 搭乗者の死傷 負傷無し 航空機の損壊 中破	本事故は、同機が飛行を継続するための高度が得られず、水田に不時着した際、畦に衝突し、機体を損傷したことによるものと推定される。	飛行機曳航	死傷者なし	中破	水田に不時着
2000-4	2000/1/9	埼玉県北埼玉郡北川辺町(利根川右岸敷)	JA22CT	アレキサンダー・シュライハー式Ka6CR型	個人	操縦者	公表	個人所属アレキサンダー・シュライハー式Ka6CR型JA22CT(滑空機、単座)は、平成12年1月9日(日)、慣熟飛行のため、埼玉県北埼玉郡大利根町の読売大利根滑空場から発航し、場周経路を飛行中、13時15分ごろ、北埼玉郡北川辺町の利根川左岸側の水田に墜落した。 同機には、機長のみが搭乗していたが、死亡した。 同機は大破した。	本事故は、同機が、低高度において、低速で不適切な旋回をしたため、失速に陥り、失速から回復することができず、墜落したものと推定される。	ウインチ曳航	機長 死亡	大破	利根川左岸側の水田に墜落

※「発生場所」:青字は河川敷滑空場  
 ※「搭乗者の負傷」:赤字は死亡。橙は重傷。

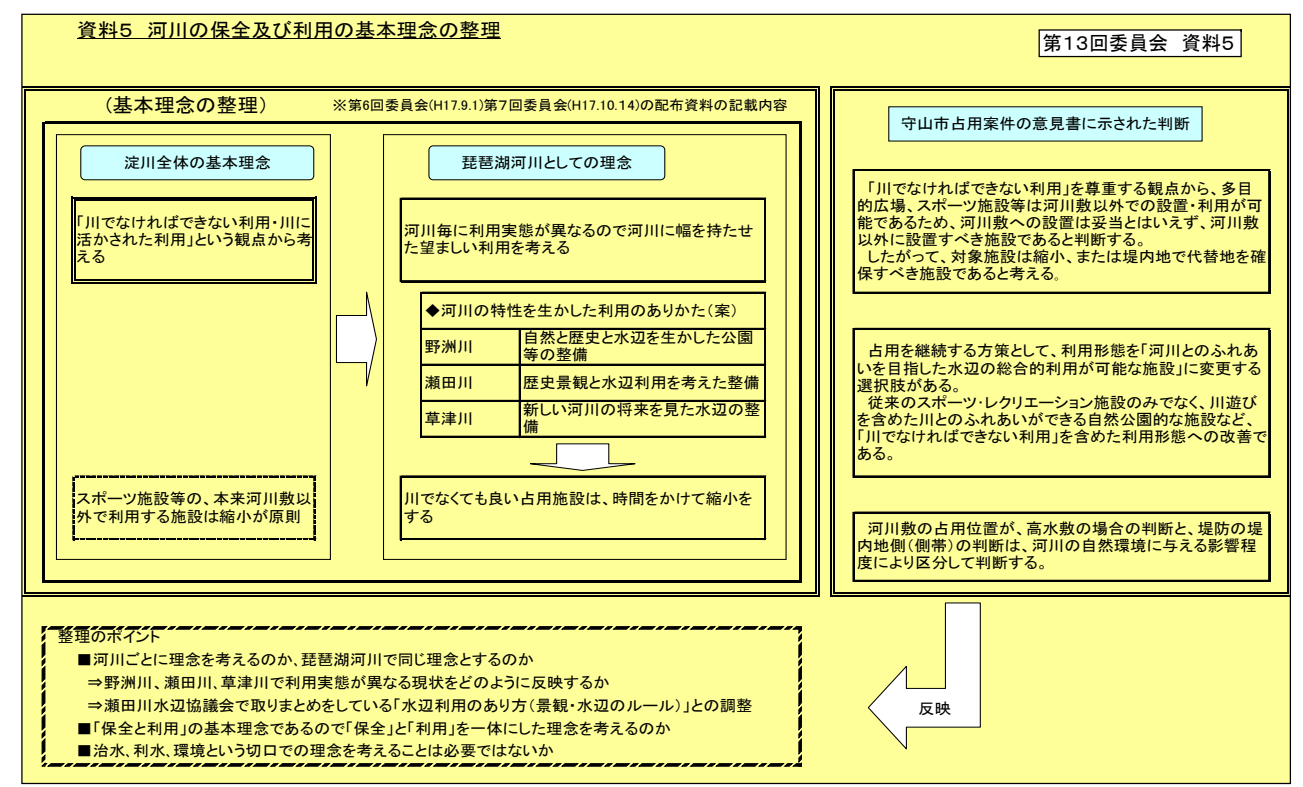
資料6 河川の保全及び利用の基本理念の整理



第13回委員会の審議結果から  
★基本理念について(案)を提案

第4回委員会までの基本理念並びにガイドラインの検討のまとめ

検討項目	第4回委員会までの審議で決定した事項	第5回委員会以降に継続して検討をする事項
河川管理者からの説明	●基本理念を誰でも分かるように具体化したものが、河川利用指針(ガイドライン)である。好ましい利用、好ましくない利用の例示、縮小の目安、問題の処理方法など ●流域委員会で提示した「川らしい川」の観点から、占用計画を判断できる内容に整理したものが基本理念、ガイドライン ●川に活かされた利用、川でないと出来ない利用と言った点でグラウンド等は縮小を基本とする	■好ましくない利用を、10年、20年のスパンで、どの程度縮小を行っていく目安を作ることが必要である。
「川でなければ出来ない利用」の観点	●許可する部分について、「川でなければ出来ない利用・川に活かされた利用」の観点から利用の形態を見直して、本来河川敷以外で利用する施設については縮小することを基本と考える。	■河川保全利用委員会は独立した組織であるので「川でなければ出来ない利用」の整理が必要である。 ⇒望ましい河川利用について、野洲川を事例に確認していく
進め方の整理	●理念を作る予定であったが、すぐに作るのは難しい。淀川全体の理念を参考に各河川ごとに理念を考える。 ●理念からガイドラインを作ると言う考えと、理念を考えながらガイドラインも作る同時並行的な進め方をする ●理念的なものをキッチリ作らず、ある程度のガイドラインをつくりモデルケースで理念、ガイドラインを充実させていく方法を採用する ●第6回で理念の答申までは行かない。理念とガイドラインが平行して作られることでも良いのではない	■現状の占用許可の内容を文章化して大枠を見ることで理念・ガイドラインの審議の参考にすることが必要 ⇒審査対象でなくサンプル事例としてグライダー滑空場を検討する。
基本理念の整理	○委員会規約第3条では、「基本理念」を検討し提案するとあるが整理が出来ていない	■基本理念は、河川ごとの特性に合った基本理念が必要と言う意見と、河川ごとに設けるのは困難と言う意見があり、合意しておく必要がある。 ■淀川全体の理念と淀川の一部である「琵琶湖河川」の理念。さらに河川ごとの理念という考え方を取るのか、河川ごとだけでよいのか？ ■基礎案を本委員会の基本的理念とするなら合意が必要である。 ⇒ケーススタディーをしながら理念とガイドラインを作っていく。
個々の河川で理念で考える項目	●淀川流域委員会の考え方を参考に方向性を確認して個々の河川の話をする形で進める。(第4回で流域委員会の資料について委員から意見を求めた)	★(川崎委員試案) 都市の規制の経験から、理念の条文を並べよりも、利用方法の「質」の面で議論してはどうか ①ポテンシャルの高いほどこかを考え区分してはどうか ・景観・利用面で水際部分が高いので、水際から何メートルの範囲は規制をかけてはどうか ②公園の質は、地形・植生と言う本来持ったものを活かし、子供からお年寄りまでが使える公園を目指してはどうか ・グラウンドだけが利用ではないので質を変更したい ③川の中で、文化遺産箇所、歴史的に保存する箇所があれば保存する考えを組み込む ④川より内陸側は、人の利用と自然共生を考え運動公園を考える
ガイドラインの整理	●基本理念として河川整備計画の中で示されたものが水系全体としての理念としてある。ただ、河川ごとにその形態や特徴が若干異なるので、全体としての基本理念をその河川に則したものにブレークダウンしたものが、その河川ごとの基本理念ではないかと考えています。ガイドラインは、それをさらに具体的にどうするかを示したものです。	■個々の河川の特徴を考えたものがガイドラインであり、承認が必要である

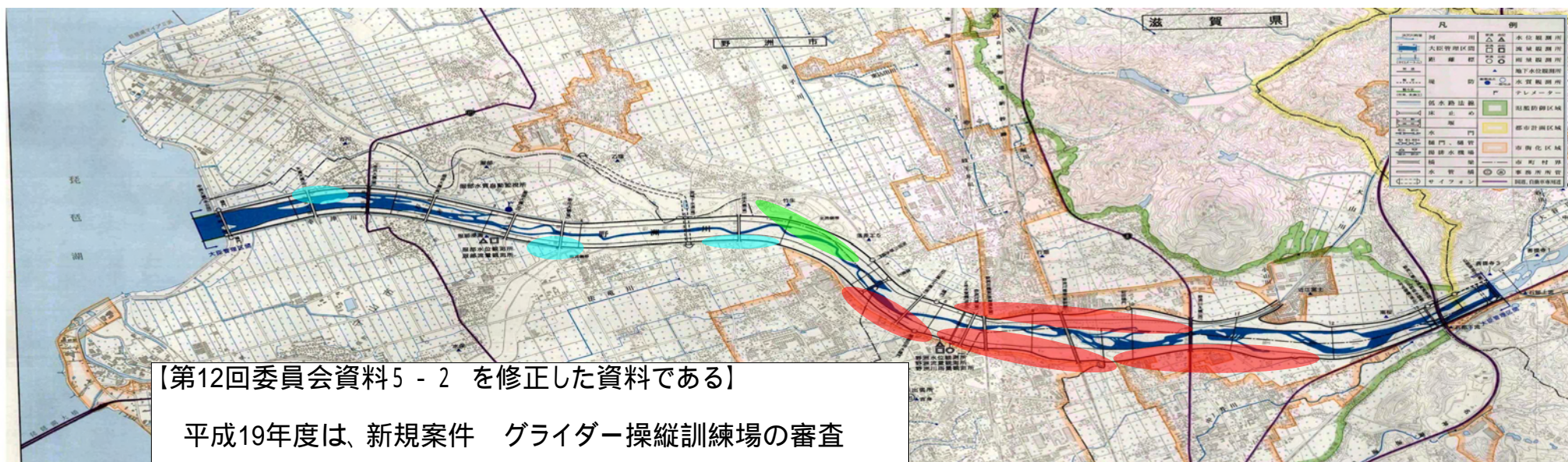


資料7 今後の委員会運営、審議内容について(案)

委員会名称	委員会運営など全体事項	各河川の基本理念の検討	申請の諮問に対する審議	意見書の提出・許可手続き	
第1回委員会 (H16年11月7日)	平成16年度 ↑	○委嘱状交付	○各河川の現状説明① ・パワーポイント説明		
第2回委員会 (H16年12月15日)		○河川管理者からの提示 ・河川敷地占用のあらまし ・基本理念、ガイドラインについて	○各河川の現状説明② 現地調査に向けての説明 ・歴史・改修・利用の現況 ・自然環境		
第3回委員会 (H17年1月19日)			○現地調査 現地視察、感想会		
第4回委員会 (H17年2月16日)			○望ましい河川とは① 公園事例を基にした議論		
第5回委員会 (H17年6月24日)	平成17年度 ↑		○望ましい河川とは② 新たな案件から見た議論		
第6回委員会 (H17年9月1日)			○望ましい河川とは③ 他の河川事例から見た議論	○審議の方向性検討 審議方法の検討 審査項目検討	
第1回作業会 (H17年9月27日)				○審査項目(案)の作成	
第7回委員会 (H17年10月14日)				○審議方法の検討・確認 審議の進め方の確認 審議表(案)の審査	
第8回委員会 (H17年11月30日)				○審議方法の決定 審議の進め方の審議 審議表の審議・決定	審査表公表
第9回委員会 (H18年1月20日)				○守山市案件の審議(1) 審査案件の現地調査 河川管理者からの説明	
第10回委員会 (H18年3月3日)				○守山市案件の審議(2) 申請者からの説明	
第1回対話集会 (H18年6月24日)				○関係住民との意見交換 河川敷公園現地見学 ワークショップによる意見交換	
意見交換会 (H18年8月31日)				○守山市案件の審議(3) 申請者からの追加説明	
第11回委員会 (H18年10月3日)		平成18年度 ↑		○守山市案件の審議(4) 審査方法の確認 ⇒審査表への意見記入	
調整作業会(1) (H18年10月24日)			○委員意見の調整作業会(1) ⇒委員意見集約・まとめ		
調整作業会(2) (H18年11月24日)			○委員意見の調整作業会(2) ⇒意見答申書(原案)作成		
第12回委員会 (H18年12月5日)	○委嘱状交付		○守山市案件の報告 意見書(案)の審議 今後の審査の意見交換	◆守山市案件の意見書提出	
第13回委員会 (H19年2月1日)	平成19年度 ↑		○基本理念の検討(1) 今までの審議の整理	○グライダー案件の審議(1) 河川管理者からの説明	
第14回委員会 (H19年5月中旬)			○基本理念の検討(2) 基本理念の検討 ○ガイドラインの考え方提案	○グライダー案件の審議(2) 申請者からの説明	
類似施設調査 (H19年6月上旬)				○類似滑空場調査 大野・木曾川滑空場調査	
対話集会① (H19年6月下旬)				○関係住民との意見交換① 現地案内調査 概要説明と疑問点抽出	
対話集会② (H19年7月下旬)				○関係住民との意見交換② 対話討論会形式 ⇒委員会に報告	
第15回委員会 (H19年8月下旬)			○基本理念の検討(3) 基本理念の決定 ○ガイドラインの審議	○グライダー案件の審議(3) 申請者からの追加説明 ○野洲川H19継続案件の整理	基本理念公表
対話集会③ (H19年9月下旬)				○関係住民との意見交換③ 対話討論会形式 ⇒住民意見交換まとめ	
第16回委員会 (H19年10月下旬)			○ガイドライン(案)の意見交換	○野洲川継続案件の検討 現地調査による委員意見 ガイドライン適用の検討	ガイドライン(案)試験適用
調整作業会 (H19年11月下旬)				○委員意見の調整・まとめ グライダー意見書の集約 ガイドライン適用の検討	◆グライダーの意見書(案)作成
第17回委員会 (H19年12月下旬)			○ガイドラインの試運用報告	○H19年継続案件の意見整理 グライダー意見書(案)審議 ガイドライン運用状況報告	◆グライダーの意見書提出 ◆野洲川継続施設意見整理

### 資料8 審査対象となる野洲川占用施設一覧

地点番号	件名	許可受取者	場所	占用面積(m <sup>2</sup> )	占用許可期間	期間満了年度	主な施設	地点番号	件名	許可受取者	場所	占用面積(m <sup>2</sup> )	占用許可期間	期間満了年度	主な施設		
	野洲川小浜河川公園	守山市	守山市小浜町地先	右岸	17,268.6	平成16年4月1日 ~平成19年3月31日	意見書提出 18年度	多目的広場 2面		野洲川ふれあい広場	野洲市、守山市連名	守山市小島町字橋本地先 ~野洲市野洲字坂田地先	左岸	57,461.66	平成14年8月9日 ~平成21年9月30日	21年度	せせらぎ広場 ホタル広場 イベント広場 自由広場
	野洲川改修記念公園	守山市	守山市笠原町地先 (野洲川南流側帯)	左岸	23,097.0	平成13年4月1日 ~平成19年3月31日	意見書提出 18年度	ゲートボール場 7面 サッカー場 1面 グラウンドゴルフ場 1面		野洲川立入河川公園	守山市	守山市吉身五丁目字裏川原 ~立入町川原	左岸	92,641.37	平成13年1月16日 ~平成20年3月31日	19年度	多目的広場 1面 グラウンド 1面 (少年ソフトボール場兼用) バスケットコート 1面 野外ステージ 1面
	野洲川川田河川公園	守山市	守山市川田町地先	左岸	34,152.4	平成16年4月1日 ~平成19年3月31日	意見書提出 18年度	多目的広場 2面 緑地広場 1面 グラウンドゴルフ 1面		野洲川河川公園	野洲市	野洲市野洲地先 ~野洲市三上地先	右岸	137,529.99	平成10年4月1日 ~平成20年3月31日	19年度	健康広場 自由広場 中央広場 陸上競技場 グラウンドゴルフ場 芝生広場 ゲートボール場 バレーテニス兼用コート 2面 テニスコート 5面
	グライダー操縦訓練場	(財)日本学生航空連盟	守山市川田町地先	右岸	66,122.0	-	新規案件	滑走路 2面 滑空機 6機 曳航ウインチ・トレーラー		野洲川運動公園	栗東市	栗東市出庭字外川原付近	左岸	34,794.36	平成17年4月1日 ~平成20年3月31日	19年度	グラウンドゴルフ場 2面 ローンプレイフィールド テニスコート 4面 ソフトボール場 3面 陸上競技場



【第12回委員会資料5 - 2 を修正した資料である】

平成19年度は、新規案件 グライダー操縦訓練場の審査

平成19年度は、占用期間を満了する3箇所の占用施設がある。

野洲川立入河川公園 野洲川河川公園 野洲川運動公園

- 凡例
- : 意見書提出施設 (平成18年度)
  - : 新規付託施設 (新規申請)
  - : 既往許可施設

資料9 大野滑空場と木曾川滑空場の現地調査(案)

【日 時】 平成19年6月3日(日) 12:30 集合

【集合場所】 東海道新幹線 岐阜羽島駅 改札出口

【行 程】

時 間	場 所		内 容
12:30		岐阜羽島駅 改札出口	集合
12:30 ~ 13:15		↓ 大野滑空場へ移動 ↓	車中 揖斐川右岸調査
13:15 ~ 14:45	①	<b>大野滑空場</b> 大野揖斐川パーク (ふれあい農園)	揖斐川右岸 52km 地点 車中より全景を見た後、 下車して現地調査
(14:15 ~ 14:45)	①	大野滑空場で地元関係者より聴き 取り調査	●滑空場の看板付記で 待ち合わせ 地元2名の方からグライダーの意見を聴く
14:45 ~ 15:30		↓ 木曾川方面へ移動 ↓	車中 揖斐川左岸調査
15:30 ~ 15:40	②	平田リバーサイドプラザ (道の駅 クレール平田)	トイレ休憩
15:40 ~ 16:10		↓ 木曾川滑空場へ移動 ↓	車中 木曾川調査
16:10 ~ 16:50	③	<b>木曾川滑空場</b>	木曾長良背割堤 20km 地点 バス降車 現地調査
16:50 ~ 17:20	④	木曾・長良背割堤を調査 ・モトクロス地点 ・ケレップ水制とワンド	木曾川 17~18km 地点 車中より調査 (必要により下車)
17:20 ~ 18:10	⑤	かんぼの宿 岐阜羽島	●現地調査の意見交換 意見交換会
18:10 ~ 18:30		↓ 岐阜羽島駅へ移動 ↓	
18:30		岐阜羽島駅	解散

※ 移動は、琵琶湖河川事務所マイクロバスにて移動します。

※ 交通事情や調査の状況等により、若干時間が変更になる場合があります。

【ルート図】 次頁参照

